

奈良県立医科大学 学報



CONTENTS

新年のご挨拶	1
次期学長候補者の選考/病院教授/女性研究者支援センター 特任教授	2
わが「老春」/叙勲受章者/平成23年度医学教育等関係業務功労者表彰	3
人工関節・骨軟骨再生医学講座/奈良県大学人権教育研究協議会講演会	4
医師主導型臨床治験-膀胱癌光力学診断	
女性研究者支援センター「まほろば」キックオフミーティング開催	5
白樺生祭開催報告	6
看護学研究科(修士課程)を設立/医学部医学科入学者選抜試験の変更	
分子生物学会年会で医学科学生が口演発表	7
クラブ紹介(バドミントン部・NLSC(奈良ライフサポートクラブ))	8
図書館だより	9
産学官連携だより	10
JSTによる競争的資金「A-STEP」/中島佐一学術研究奨励賞の募集	11
看護学教育における研究活動を振り返って	12
平成23年度 外部資金獲得状況	13~15
附属病院から 中学生の職場体験学習を受入/臨床研修マッチング結果	16
看護部から 所属紹介	17
台風12号災害義援金についてのご報告/健康管理事業を実施	
公開講座「くらしと医学」開催	18
レポート(役員会及び教育研究審議会の報告)	19
メディア掲載情報/下ツ道/広告	20

January
2012

vol. 39

新年のご挨拶

学長 吉岡 章

明けましておめでとうございます。

年末には、皆様方からの温かい信任を頂き、ありがとうございました。私は引き続き2年間、理事長・学長として大学の運営と経営に邁進する決意を新たに致しております。

私は所信表明の冒頭で、本学が20年後には「全国医学部医科大学のトップ10」入りを目指すと言いました。「トップ10とはなんと荒唐無稽で、身の程知らず」との諷刺を受けるかも知れませんが、これは単なるスローガンでも夢でもなく、実現可能な目標であり、到達点と考えます。本学医学科では毎年優秀な入学生を迎え、その偏差値は高く、15~20位であります。また、附属病院の経常収益では、すでに国公立大学のトップ10に入っており、潜在的な実力はそれに匹敵するものを持っています。

「地方」の「単科」の「公立」の医科大学である本学にとっては、これらの一つ一つが大学としては弱点である、と捉えることも不可能ではありません。しかし、本当にそうでしょうか？そしてそれは諦めるべき、どうしようもない決まり事なのでしょうか？

「地方」とはいえ、この地は1300~1500年前のわが国最古の首都であったのです。今日では東京とも、また、世界中のいかなる都市ともIT環境の整備によって「地方」という弱点は克服可能であります。「単科」とは、それ故に総合大学のような他学部との連携や支援を受けることは出来ません。しかし、本学はその分機動的であり、かつ、人と人との繋がりが豊かであります。「単科」という弱点は学内各講座・領域との連携や他大学とのコンソーシアムによって克服可能であります。「公立」とは、奈良県という脆弱な財政基盤に立脚しているものの、ここ奈良大和の地に根差し、地域と共に発展して行くには「公立」こそがふさわしいのです。私達は常に地域の人々と共にあります。それ故に、県内唯一の医育機関である本学は、知識と技能と意欲・使命感を兼ね備えた医師・看護師の育成と先進医療の実践を通じて奈良県民に奉仕し、地域医療の充実と、健康まちづくりに貢献しなければなりません。

それと同等以上に本学にとって大切なことは、歴史と名譽ある医科大学として独創的・先端的研究を国際的・学際的に推進することです。私はこの地域性と国際性を同時に推進、発展させることこそが、本学が「トップ10」入りを目指す上で基本的かつ確実な戦略であると確信しています。

Think globally, act locally, and live glocally !

地球規模で物を考え、地域のために活動し、そしてglocal (global + local) に生きようではありませんか！

次期学長候補者に吉岡学長の再任が決定

平成24年3月31日の任期満了に伴う次期学長候補者の選考が行われ、12月22日の意向調査投票の結果（下記）を踏まえて、同日開催された学長選考会議において、吉岡 章学長の再任が決定されました。任期は平成24年4月1日から平成26年3月31日までの2年間となります。

(意向調査投票結果)

投票総数 365票（うち有効投票360票、無効投票5票）

信任 331票 不信任 29票

なお、部局長についても平成24年3月31日で任期満了となるため、今後、副学長（医学部長、附属病院長）選考、研究部長、附属図書館長及び看護学科長の選考、各教育部長選考が順次行われる予定です。

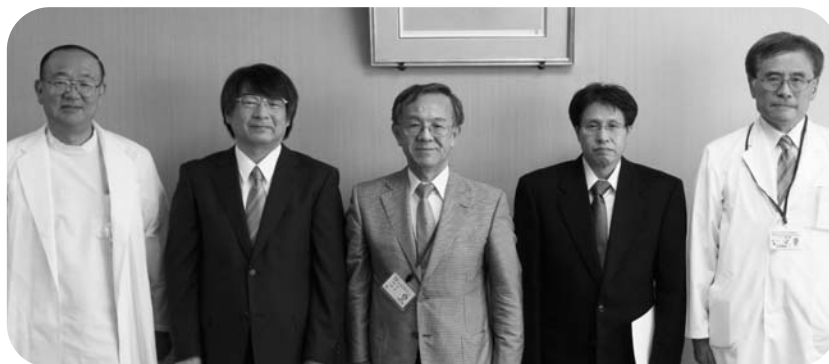
益々のご活躍を

～藤本先生、山尾先生が「病院教授」に～

平成23年10月1日付けで総合医療学 藤本隆先生ならびに中央内視鏡・超音波部 山尾純一先生が病院教授になりました。

昨年度創設されたこの制度は「特に診療面で優れた実績が認められる者に対し称号を付与する」ものです。

リウマチセンター 病院教授 藤本 隆先生
中央内視鏡・超音波部 病院教授 山尾純一先生



田中先生 藤本先生 吉岡学長 山尾先生 福井先生

女性研究者支援センター特任教授に御輿先生を任命



平成23年11月1日付けで女性研究者支援センター 特任教授(マネージャー)に御輿^{おこし}久美子先生が任命されました。

本センターは、優れた女性研究者の育成を図り、もって本学の研究・教育活動を一層活性化させることを目的に設置されました。

わが“老春”

前奈良県立医科大学長（現天理医療大学長） 吉田 修



“老春”という言葉は広辞苑にはありませんが、65歳以降に遭遇する「春」をこう呼ぶならば、私の奈良県立医科大学時代（2001年10月～2007年3月）はまさしく老春と呼ぶにふさわしいものでした。ただただ大学の現在・未来を考え、そのいくつかを実行できたのですから。退職して一、二年の間はこの時代の楽しかったことだけではなく、苦々しい想いも残っておりました。今はそれらが全て楽しかったことに変化しているのに気づき、我ながら驚いております。年をとるということは、不思議なものです。

いま、日本の大学はかつて経験したことのない困難な時代にあるといえます。医療人を育成する大学も例外ではありません。この時代になにが必要か？それは大学の理念をもう一度考え直すことです。大学の原理・原則をしっかりと確認することです。そして軸をぶらすことなく、教育・研究に専念することです。このような困難な時代こそ、大学人であるあなた自身の矜持がもっとも必要なのです。あなた自身の自負と誇りです。

今回の駄文を綴る動機になったのは叙勲ですが、このようにして私の老春を振り返る機会を持ち、また何やら教訓めいた文章を書く機会を持てたのも、叙勲なるものの功罪のうちの功の一つかもしれません。

現在私が心がけていることは次のゲーテの言葉に表されます。

財貨を失うことは少し失うことだ。
名誉を失うことは多くを失うことだ。
勇気を失うことは全てを失うことだ。
生まれなかった方が良かったらう。

現在の私にとって勇気とはなにか？心の若さです。理想を見失うことなく、粘り強く、現実に対峙する情熱です。いつまでもこの勇気を持ち続けたいと思っております。

わが老春を燃やした奈良県立医科大学の永遠の発展を祈ります。

叙勲受章者

叙勲は、国家又は公共のために功労のあった方を対象に授与されています。
平成23年中の本学関係者の受章は下記のとおりです。心からお祝い申し上げます。

春	瑞宝中綬章	吉田 修氏（前奈良県立医科大学学長（現天理医療大学学長））
秋	瑞宝中綬章	奥村 秀弘氏（卒業生（現天理よろづ相談所病院総長））
同	瑞宝中綬章	立松 昌隆氏（卒業生（元国立奈良病院長））
同	瑞宝単綬章	田中 二見氏（元看護師長）

※毎年、春は4月29日、秋は11月3日に発令されます。

平成23年度 医学教育等関係業務功労者表彰

大学における医学についての教育、研究、患者診療等に関する業務について、特に顕著な功績があったとして、11月24日に次のお二人が文部科学大臣から表彰されました。



中村 勉さん
(中央臨床検査部)



森家 佳子さん
(看護部)

人工関節・骨軟骨再生医学講座を開設

寄附講座 人工関節・骨軟骨再生医学 教授 川手 健次



平成23年4月1日付けで日本メディカルマテリアル株式会社の御寄附により人工関節・骨軟骨再生医学講座を担当させていただくことになりました。私は奈良県王寺町の出身で昭和大学医学部に進学、1983年卒業し医師国家試験合格後すぐに奈良県立医科大学整形外科に入局いたしました。その後各病院で研修させていただき、1993年には1年間アメリカのハーバード大学マサチューセッツジェネラルホスピタルに留学し、人工関節を中心に研鑽を積んで参りました。奈良県立医科大学および附属病院には1995年1月から17年間お世話になっております。またその間大串先生に指導いただき、大腿骨頭壊死に対する再生医療として骨髄間葉系幹細胞を培養し壊死部に移植する方法を考案いたしました。これまでに整形外科で培った経験をさらに専門的に発展させ、関係各科のご協力を得て講座を運営していきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

よろしくお祈いします

1960年頃からイギリスから徐々に世界に広まっていった人工関節は、超高齢化社会を迎えつつある本邦では、平成11年には人工膝関節置換術と人工股関節置換術がそれぞれ約30,000件と約22,500件でしたが、平成22年には人工膝関節置換術が約90,000件、人工股関節置換術が約43,000件と急増しています。しかしこれを人口比で見るとアメリカの約1/4の件数であり今後ますます増加していくことは間違いないと思われます。医用工学の発展により1990年代後半から人工関節の材料は飛躍的に改良され長期成績は以前に比べて格段に良くなっていますが、この講座では奈良県における人工関節のさらなる成績改善と人材の育成を目的としています。

また人工関節の再置換術時には、多くの症例で骨が欠損したり脆くなったりしているために他人の骨を移植する方法（同種骨移植）が必要ですが、同種骨移植は提供していただく絶対量が少ないためその対処に難渋しているのが実情です。大きな骨腫瘍を摘出した場合にも非常に大きな骨欠損ができます。そのような骨欠損症例や偽関節症例に対する治療ニーズに応えるためにこれからの発展が期待されているのが骨軟骨再生医学の分野です。そこにはiPS細胞、ES細胞、骨髄幹細胞、人工骨などがソースとして含まれます。現在のところ一部臨床応用もされていますが、まだまだ基礎研究が中心の分野です。そこで骨軟骨再生医療によって近い将来骨や軟骨を必要十分に供給できるように臨床実用化を目指すことがこの講座のもうひとつの目的です。

競争が激しい分野ですが、関係各位のご指導ご協力をよろしくお願いいたします。

(学務課)

奈良県大学人権教育研究協議会講演会

奈良県大学人権教育研究協議会は、部落問題をはじめ、すべての人権問題を重要な課題と認識し、人権教育を研究・推進することを目的として設立され、奈良県内の15の大学・短大が参画しています。

協議会では、講演会や研修・交流会の開催など、毎年、人権啓発を目的とした活動を展開していますが、今年度は奈良医大が幹事校として各種行事を実施しています。

11月5日には早稲田大学の甲斐克則教授を講師に招き、「震災をとおしてみた人権問題」をテーマに講演会を開催しました。会場となった巖櫃会館の大ホールには県内の大学から約50名の参加者がありました。



甲斐教授は3月11日に発生した東日本大震災による被災者は、治療を受ける権利やプライバシー権など、多くの権利が守られていないことや、原発事故によって生じた被災地への偏見などの課題を指摘し、今後、国民一人一人が、守るべき「人間の尊厳」とは何か、守るべき地球環境とは何かを真剣に考えていく必要があると話されました。

講演後は、喜多医学部長の進行により質疑に移り、参加者からは数多くの質問が投げかけられ、活発な意見交換の場となりました。

医師主導型臨床治験—膀胱癌光力学診断

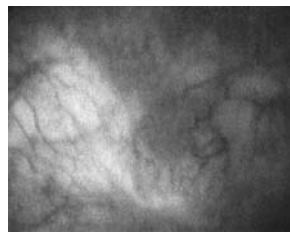
泌尿器科部長 平尾 佳彦

日本医師会治験促進センターの研究事業研究費の交付を受けて、医師主導型治験「5-アミノレブリン酸（5-ALA）による蛍光膀胱鏡を用いた膀胱癌の光力学診断に関する多施設共同研究」がスタートします。膀胱癌の光力学診断は既に2010年6月に高度先進医療の臨床研究実施の承認が得られて、本学でも既に実施しています。

筋層非浸潤膀胱癌は経尿道的膀胱腫瘍摘除術で膀胱温存が図れますが、術後3年以内に50～80%が膀胱内に再発し、この膀胱内再発は微小な癌や平坦な癌など、従来の白色光膀胱鏡では視認困難な病変が関与することが知られています。このために現在の内視鏡を超える腫瘍同定能力をもつ診断方法の開発が望まれてきました。



通常白色光源下



蛍光光源下

5-ALAは生体内に存在する天然アミノ酸で、投与によりミトコンドリアでプロトポルフィリンIX（PpIX）に代謝され、青色光の励起により、図の如く、癌細胞が赤色蛍光を呈して、特異的に可視化され診断精度が向上します。今回、5-ALAの薬事承認の取得に向けて高知大学泌尿器科 執印太郎教授を治験調整医師とする新たな医師主導治験が計画され、本学も参加しています。

日医医師主導型治験では、その成果が未知数でメーカーが着手しにくい国内未承認薬などの治験を日医が支援し、画期的な新薬の国内での速やかな提供を促すために行なわれていますが、実施の基本原則として、新GCPに添った内容で実施することが求められ、実施医師が従来の治験依頼者と同様の責務を負わなくてはなりません。本学では今までに医師主導型治験の経験はありませんが、臨床試験の新たな展開と考えて取り組みますので、皆様のご協力をお願い致します。

（研究推進課）

女性研究者支援センター まほろば キックオフミーティングを開催しました(H23.12.16)

本学は文部科学省の平成23年度科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の採択を受け、女性研究者支援センター「まほろば」を中心に、女性研究者に対する様々な支援活動を本格的に始動しています。平成23年12月16日(金)には、お2人の先生をお招きして、キックオフミーティングを開催しました。

吉岡学長の挨拶の後、多田 敏子先生（徳島大学大学院保健科学教育部長）より「仕事を通じた出会いと学び」と題して講演いただきました。



多田先生

多田先生ご自身が学生時代の実習から現在までに経験された印象的な出来事を交え、「仕事があるからこそ得られる出会いがあり、またその体験を次の世代へ継続していくことが重要である。」と、女性にとって仕事を続けていくことの大切さをお話しいただきました。

引き続き、桃井 眞里子先生（自治医科大学医学部長）より「女性研究者・医師育成のあるべき方向性」と題して講演いただきました。



桃井先生

男女共同参画社会について諸外国と比較した各種データを用い日本の現状をわかりやすく説明いただき、女性が職業人生を築くために今後日本では「男女共の意識改革、育児・家事への社会インフラ整備が必要である。」とのお話をいただきました。

会場からの質問も活発で関心の高さがうかがえる講演となりました。

講演後アンケートでは、一人一人違った要望に応えるフレキシブルな支援を望む声や、介護支援についてもっと知りたいといったご意見をいただきました。講演後の交流会にも多くの方にご参加いただき、今後の女性研究者支援活動にとって有意義なミーティングとなりました。

平成23年度

“絆” 白檀生祭のご報告

(平成23年度白檀生祭実行委員会一同)



今年も10月末という爽やかな季節に平成23年度奈良県立医科大学白檀生祭を開催させて頂きました。今年度のテーマは「絆」。人と人とのつながりの大切さ、人の優しさ、人の温かさを強く意識することとなった今年、自分達ももう一度、人と人との「絆」を再確認しようという思いから、このテーマに決定致しました。

今年は展示部門に、新たに有志で3団体(災害ボランティア、Preドクターズ、Nara Life Support Club)が参加。また、最終日のエンディングでは各パートの最優秀を表彰し、展示部門では最優秀展示として災害ボランティアによるパネル展示が選出されました。

①シンポジウム：外部から大阪大学名誉教授(放射線科) 彩都友誼会病院院長の中村仁信先生をお招きし、特別講演「原発事故に伴う放射線被曝問題について」という演題でご講演を頂き、また本学からは西尾健二先生(総合診療科 准教授)、河野恵師長(消化器外科 看護師長)、中務智彰君(医学科1年)を演者に「奈良医大としての医療支援」という演題でご講演を頂きました。

②チャリティーバザー
日本赤十字社の協力のもと、東日本大震災の支援金として寄付致しました。募金等を含め総額156,950円もの売り上げとなりました。ご協力頂いた皆様、本当にありがとうございました。

③展示
第一解剖学教室と放射線医学教室のご協力のもとに『からだのしくみ展』を行いました。

④CPR(心肺蘇生法)体験
看護学科実行委員により、一般教育校舎で行われました。実際に人形を用いて心肺蘇生法を体験してみようと、学生、一般の方を問わず参加して頂きました。

⑤災害ボランティア・福島県物産展
今年の東日本大震災で福島県での災害ボランティア活動に参加したメンバーを中心に、ボランティア活動の報告と、福島県物産展を開催しました。

その他、「佐藤健トークショー」や「平井喜美ライブ」なども行い、学外からもたくさんの方にご来場頂きました。

最後になりましたが、ご協力下さった関係者様各位、並びにたくさんのアドバイスを下さった諸先輩方にこの場をお借りして御礼申し上げます。本当にご協力ありがとうございました。どうか来年以降も白檀生祭をよろしくお願い申し上げます。



デル学割

Student Purchase Program

キャンペーン価格からでもさらに 期間限定 2012年4月28日(木)まで

最大 ¥10,000 OFF!



The power to do more

デルの最新PCをアカデミックプライスで。

デルの最新PCがアカデミックプライスで購入頂ける、とってもお得な「デル学割」キャンペーンを実施中です。インテル® Core™ i5 プロセッサー搭載の最新人気モデルなど、厳選したラインナップをご用意しております。Dellの最新PCで、よりスマートでエキサイティングな学生生活を!

Inspiron™ シリーズ
¥2,000 OFF

XPS™ および法人製品*
¥7,000 OFF

Alienware シリーズ
¥10,000 OFF

*Vostro™ シリーズ、OptiPlex™ シリーズ、Latitude™ シリーズ、Dell™ Precision™ シリーズに限りません。

SPP専用Webサイト

<http://www.jp.dell.com/spp>

SPP専用ダイヤル

0120-912-053 9:00~18:00 (土日祝日を除く)

デル リアルサイトでご注文

PCを実際に見て試して、ご購入頂けます。デル PC 専門の販売員が親身に相談にのらせていただきますので、PC選びでも安心してご購入いただけます。
リアルサイトのご案内 Webサイト <http://www.jp.dell.com/realite>

「デル学割」は学生および教職員の皆様の個人購入が対象となります。(授業・科研費での購入は対象外となります)

デル学割キャンペーンご利用条件：※キャンペーン期間中お一人様5台までのご購入に限り。あらかじめご了承下さい。※本キャンペーンでは、個人でのご購入の場合のみ適用となります。(授業、科研費でのご購入、及び法人名義でのご注文には適用できません) ※キャンペーン対象モデル以外の製品、周辺機器、サポートにつきましては別項対象外となります。※お支払方法は、現金前払い/クレジットカード他よりお選びいただけます。※本キャンペーンは、請求先を法人にする必要があります。また購入後の無条件返金はできません。※本キャンペーン専用オンラインサイトの掲載価格は変動する場合がございます。お申し込みを受けた時点での価格を適用させていただきます。
デル株式会社 〒112-8509 川崎市幸区堀川町500番地 ソリッドステーツ エアビル20F ●本広告の有効期限は、2012年4月20日です。*専用ダイヤル、専用Aの番号、専用Webサイトは4月29日(AM2:00)までとなります。
●対象資格/デル株式会社と取引のある教育機関に所属されている学生、職員の方。ご注文条件：以下の条件を満たすことが必要となります。①キャンペーンの適用は専用ダイヤル又は専用オンラインサイトにて対象商品をご注文頂いた場合に限り有効となります。②個人名義、個人使用用途でのご購入のみが適用されます。授業・科研費での購入、および法人名義でのご購入の場合は適用外となりますので予めご了承ください。③ご注文後のご連絡・キャンセルに関して/対象資格のお客様からのご注文、またはご利用条件を満たさないご注文はキャンセルさせて頂く場合がございます。●再販・転売目的のご注文は受け付けられません。●製品の購入には当社の販売条件が適用されます。
●製品は、正式受注後、通常約2-3週間ほどでお届けしております。(お選びになった製品、構成内容、正式受注手続きの時期により納期が前後することがございます。あらかじめご了承ください。) ●返品・交換は納品日より10日以内に弊社へご連絡頂いた場合に限りお受けいたします。但し他社製ソフトウェアおよび周辺機器、消耗品の返品は受け付けておりません。デルの責めに帰すべき事由がない限り、返品時の配送料及び入金名目の振込手数料はお客様の負担とさせていただきます。●お支払関連情報は、各々の次等終了となります。●掲載価格とデルホームページにおいて販売される構成は若干相違があります。●本広告に掲載されているソフトウェアの動作環境につきましては、以下のURLにてご確認ください。(<http://www.dell.com/software/req>) ●Inspiron、XPS、Dell、ロゴは、米国Dell Inc.の商標または登録商標です。●Intel、インテル、Intel Core、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Intel Atom、Intel Atom Inside、Intel Core、Core Insideは、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporationの商標です。Microsoft、Windows、Windows Vista、Officeロゴ、Outlook、Excel、PowerPointは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。●その他の社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

Inspiron M101z

もっと楽しく。
小さく、でもハイパフォーマンスで。

通常価格：49,980円
SPP価格：47,980円



XPS 14z

あなたのインスピレーションを研ぎ澄ませ、
美しいデザインノート。

通常価格：79,980円
SPP価格：72,980円



広告

奈良県立医科大学大学院

看護学研究科(修士課程)で学んでみませんか？

本学では、平成24年度から看護学研究科(修士課程)を設置します。奈良県下では、初めての看護学の大学院研究科となります。

本研究科の目的は、高い倫理観や科学的思考力を育てると共に学際的視野を広げ、看護学における研究課題を自発的・具体的に研究を行うことで質の高い看護学を学習すること、また実践できる能力を養うことにあります。とりわけ「資質の高い看護職者の養成」「看護学の進歩に伴うリーダーの養成」「在職者の再教育」に重点をおきながらの育成をめざします。

さらには、大学院における助産師の高度実践者の育成を目的とした助産学分野を新設し、助産師の国家試験受験資格を得ることができます。本学の特色として、メディカルバースセンターが設置されていることから、母と子および家族に対するケアの開発研究や高度な実践力を持ち、他分野と協働しながら母子保健に貢献できる研究者・実践者の育成もめざします。

修士課程では、広い視野に立つこと、深い学識や専門的な研究、応用能力を身につけることに対し、気概と意欲のある人や多様なバックグラウンドを持った人へ門戸を開いてお待ちしております。

みなさんも自分自身の看護の可能性が広がる大学院で共に学んでみませんか？

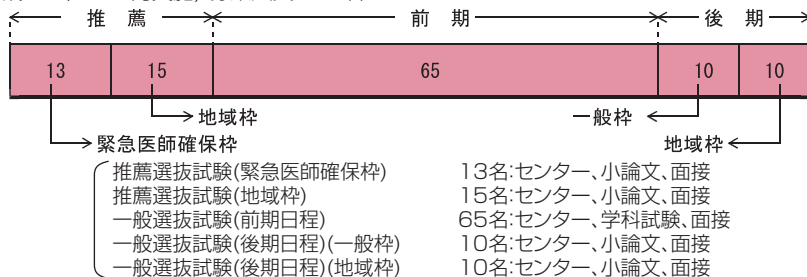


(学務課)

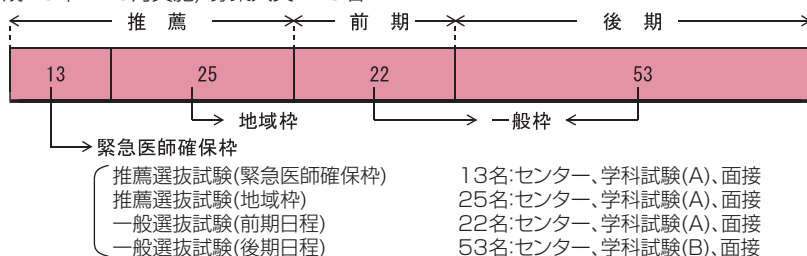
医学部医学科入学者選抜試験の変更について

医学部医学科では、将来の奈良県医療を担う熱意にあふれた、高い学力を持つ学生を募集するため、平成25年度実施の入学者選抜試験を下記のように変更して実施します。

【現行】平成24年度(平成24年2~3月実施):募集人員113名



【変更】平成25年度(平成25年2~3月実施):募集人員113名



※変更後は、一般選抜(前期日程)と同(後期日程)の募集人員を大きく変更するとともに、地域枠の募集は推薦選抜のみとします。また、小論文試験にかえて、全ての試験区分で学科試験を実施します。入学試験実施に関する具体的な内容は、平成24年7月発表予定の「選抜要項」で公表します。

分子生物学会年会で医学科学生が口演発表

昨年12月に開催された日本分子生物学会年会(横浜市)において、医学科3年稲田賢君の演題が口演発表に選ばれました("Tmem100, a novel intracellular transmembrane protein, regulates endocardial cushion formation in cardiac development.").本研究には医学科3年佐藤玄基君と5年伊藤宗洋君も共同演者として参加しており、学生が放課後や週末に行った実験の成果が認められたことは、本学の研究医養成における大きな収穫です。

連載 クラブ紹介

本学の学生は、勉強だけをしているわけではありません。
多くの学生は、文化系12部、体育系24部のうちのいずれかのクラブに所属しています。そして、心身を鍛え、交友を深め、青春を謳歌しています。

さて第7回のクラブ紹介は、バドミントン部とNLSC(奈良ライフサポートクラブ)です。



バドミントン部 「強く、楽しく、真剣に」

部員:29名
顧問:松村 雅彦(地域医療学教授)
主将:澤田 賢治(3年)
活動内容:バドミントン
練習日:毎週火・木曜日又は火・土曜日の
午後5時前～7時半

バドミントンは、全ての球技のうち、打球の初速が最も速いことでギネスブックに認定されています。誰でも簡単に楽しめるスポーツである一方、パワー・技術・瞬発力・持久力を要する奥の深い競技でもあります。

ちなみにスマッシュの初速は、最速で時速400km以上にも達するそうです。そんなスマッシュを是非一度見てみたいものです。

現在バドミントン部には、男子14人、女子15人のあわせて29人の部員がいます(そのうちの半数以上は大学から始めています)。バドミントンは個人戦だけでなく団体戦もあるので、みなで丸となって毎回の練習に取り組んでいます。部活の時は真剣に、オフの時にはみんなで旅行に行ったりもする楽しい部活です。

主な大会は年に3回、新人戦を入れると4回あります。大会は他大学と交流を深め、友人を作る絶好の機会です。特に、夏に開かれる西日本医科学生総合体育大会(西医体)は西日本全体から多くの学生が集まる一大イベントです。

この記事を読んでバドミントン部に興味を持たれた方は、ぜひバド部ホームページをご覧ください。

<http://narmedbado.web.fc2.com/index.html> (奈良県立医科大学バドミントン部)



NLSC(奈良ライフサポートクラブ) 「救命への志を胸に」

部員:49名
顧問:古家 仁(麻酔科学教授)
部長:横川 暢(3年)
活動内容:ワークショップ・勉強会
練習日:不定期

こんにちは、NLSCです。NLSCはつい最近「学生へのALS(二次救命処置)の普及」「一般の方へのBLS(一次救命処置)の普及」「部員間の学年横断的な勉強と相互交流」を目指して発足したクラブです。顧問をお引き受けいただいた麻酔科の古家仁先生をはじめ、多くの先生方の協力の下で様々な活動を行っています。主な活動は以下のようになります。

- ・全国の医療系の学生を対象としたALSワークショップの開催
- ・学外、学内の先生方をお招きしての様々な講義の主催
- ・新入生や患者さんのご家族に対してのBLS講習会
- ・部員が各自で勉強してきた内容を部員で共有する勉強会

特に、多くの学生と一緒に行うワークショップは、二日間ほどかけてしっかりと救急の手技の中でもALSを学ぶことができるNLSCの中心活動です。学年や学校を問わず多くの学生と交流できる機会、低学年の学生も数多く参加しています。奈良医大だけにとどまらず全国的に活動の場が広がるNLSCに皆さんも参加してみませんか。

連載 **電子ジャーナルを使いこなそう! 第4回**

オヴィッド・テクノロジーズ社「オヴィッド・エス・ピー (OvidSP)」

今回はオヴィッド・テクノロジーズ社 (以下オ社) の「オヴィッド・エス・ピー (OvidSP)」をご紹介します。オ社は、複数の出版社の電子ジャーナル、電子ブックやデータベースを自社開発のプラットフォームで提供しています。このような業者は一般にアグリゲーター(Aggregator)と呼ばれています。オ社は主にリップピンコット・ウィリアムズ&ウィルキンス社(Lippincott Williams & Wilkins)が発行する電子ジャーナルならびに電子ブックを扱っており、中にはアメリカ心臓協会(American Heart Association)が発行する「Circularion」なども含まれています。本学では、55誌のジャーナルを購読中で、77冊のブックを購入済みです。

OvidSPトップページ (<http://ovidsp.ovid.com/autologin>) から情報源を選択します (図1)。本学で契約している電子リソースに限定する場合は「Your Journals@Ovid」を選びます。そのほか、「Ovid MEDLINE」も利用でき、PubMedよりもさらに細かい情報検索ができます。「Your Journals@Ovid」を選びますと検索画面が表示されます。雑誌タイトルを指定するには、画面上部にあるタブメニューから「Journals」を選び、アルファベット順に探していきます (図2)。一覧で表示される雑誌タイトルを選ぶと、雑誌ページが開きます。すると、画面中央には最新号の目次が表示されます。別の巻・号を見る場合は左側メニューの巻・号一覧から選ぶことができます。目次ページでは全文が見られる場合は、各文献データの右側に「Ovid Full Text」および、文献データ下方にPDFファイルのアイコンが表示されますので、クリックすれば全文を見ることができます (図3)。アクセスできる範囲はジャーナルによって異なりますので、巻・号一覧をご確認ください。

一方、タブメニューから「Books」を選びますと利用可能なブック・タイトルがアルファベット順に表紙画像入りで表示されます。当館ホームページ「所蔵資料検索」からも検索可能で、「E-BOOK」として登録されています。

ご不明な点がございましたら、担当 (鈴木、内線2293) までお問い合わせください。



図1)



図2)



図3)

電子ジャーナル・電子ブック使用上の注意!

以下の禁止事項は電子ジャーナル・電子ブックの提供元との利用契約に明記されています。使われる際にはご注意ください。

1. 使用目的は個人の学術研究に限ります。大量にダウンロードまたは複製してはいけません。その場合、損害賠償の請求あるいは全学に対する使用停止の処置があり得ます。
2. 入手した情報を、修正・改作・変形・翻訳などしてはいけません。
3. 利用に必要な ID・パスワードを他者に教えてはいけません。

産学官連携だより

「奈良無拘束生体計測研究会」のプロジェクトが始動しました。

10月11日 第1回 奈良無拘束生体計測研究会を開催しました。本研究会はけいはんな学研都市ヘルスケア・イノベーション推進協議会が、文科省・経産省・農水省3省合同公募研究「地域イノベーション戦略支援プログラム」で選定され、文科省「戦略支援プログラム」に本学が参画することになったことにより開催するものです。

この事業の一環として本学に株式会社タカトリより特任助手を招聘いたしました。本学の分担研究課題は、「MEMSを用いた無拘束生体計測基盤技術と測定機器の開発」で、泌尿器科学の平尾教授が中心となって研究会が設けられました。

本研究は、生体計測の理想とする無拘束、無意識下、低侵襲で長時間連続して測定できるシステムを実現するために、MEMS (Micro Electro Mechanical Systems : 微小電気機械システムの略) 等を用いた無拘束生体計測の基盤技術を確立し、新たな生体測定・診断システムを開発することを目的とします。

具体的には、関西文化学術研究都市推進機構を中心とした都市エリア産学官連携推進事業でASIC (Application Specific Integrated Circuit) として生体計測に特化して開発された小型・低消費電力の双方向通信MeSoC (Medical System on a Chip)と、既に上市されている生体情報を測定するMEMSをマッチングさせて、医療現場で求められる被験者の日常生活を反映した長時間の生体情報を測定する新しい概念の診断技術の開発を目指すのです。

第1回 奈良無拘束生体計測研究会では研究会の趣旨と今後の活動について説明を行い無拘束生体計測に関連する部署の方々にご意見をいただく目的で開催しました。

当日は、本学の教職員だけでなく、県内外企業関係者の皆様も含め、総数37名の参加をいただきました。また、研究会後先生方から様々なご提案をいただきましたことをお礼申し上げます。

◎MEMSとは

微小電気機械システムの略で、半導体製造技術や各種の微細加工技術応用し、電気要素と機械要素をひとつの基板上に組み込んだデバイスシステム (センサ、アクチュエータなど)。例としては自動車衝突検出やゲームコントローラに利用されている加速度センサ、家庭用血圧計に利用されている圧力センサ等があります。

◎MEMSと従来LSIの違い

従来のLSIは、固定された基板の電気信号のみを処理するのに対して、MEMSでは、上下左右などに可動する機械的特性も信号として処理します。そのためLSIの機能に加え、機械的な耐久性・強度なども要求されます。

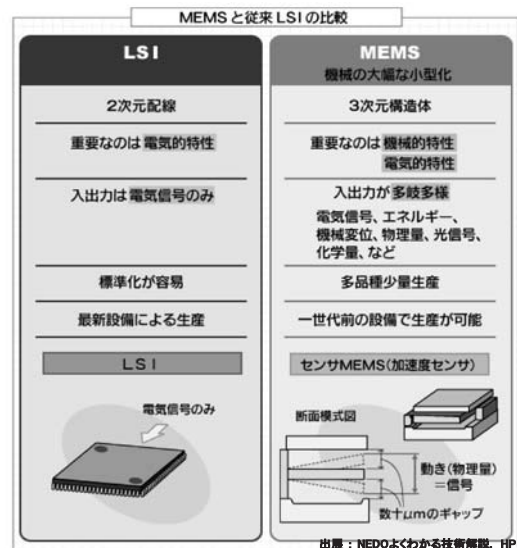
製造面では、LSI工場が極限までの微小化に対応した最新設備を求められるのに対して、MEMSでは極限までの微細化は必要がなく1世代前のLSIを利用すれば充分なので、既存の量産設備に独自技術を付加するだけで、コストの低い製品を提供できます。

◎MEMSの特徴 (I)

- ・小形 (高感度、高速応答、低消費電力、高空間分解能)
- ・集積化 (低コスト、アレイ構造) (構造体+センサ+回路+アクチュエータ)
- ・アプリケーションの中で“カギ”を握るデバイス

◎MEMSの特徴 (II)

- ・これまで存在しなかったアプリケーションの創出。
(加速度センサ、ジャイロ、インクジェットプリンターヘッド)
- ・これまでのデバイスの置き換え。
(圧力センサ、シリコンマイクロフォン、シリコン振動子)



JSTによる競争的資金「A-STEP」 2月頃に公募詳細が公開の予定です

A-STEPは大学・公的研究機関等（以下、「大学等」という。下記（注）参照）で生まれた研究成果を基にした実用化を目指すための幅広い研究開発フェーズを対象とした技術移転支援制度です。

（注）「大学等」とは、国公立大学、高等専門学校、国立試験研究機関、公立試験研究機関、研究開発を行っている特殊法人、独立行政法人、公益法人等をいいます。

大学等における研究成果の中から技術移転の可能性を探索するフェーズや、シーズ候補を企業の視点から掘り起こして、シーズとしての可能性を検証して顕在化させるといった実用化に向けたフェーズの初期段階から、顕在化したシーズの実用性を検証する中期のフェーズ、また、研究成果を基にしたベンチャー起業により実用化をめざすフェーズ、さらには製品化に向けて実証試験を行うために企業主体で企業化開発を実施する後期のフェーズまで、それぞれの研究開発フェーズの特性に応じた複数の支援タイプにより実施しており、フィージビリティスタディステージ及び本格研究開発ステージの2つのステージから構成されています。

平成24年度の公募詳細が2月頃に公開される予定です。関西TLO（株）が申請書のブラッシュアップ支援を行います。応募をお考えの研究者は、関西TLO（株）（担当：山本 e-mail：yamamoto@kansai-tlo.co.jp）までご連絡ください。

【参考：H23年度の本学における採択状況】

第2内科学	助教	藤田 幸男	慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者の呼吸波形解析を活用した呼吸困難評価法の開発
産婦人科学	助教	野口 武俊	腔内pH値及び緩衝能測定による早産の早期予知法の開発
口腔外科学	助教	今井裕一郎	3次元画像による顎顔面領域外科手術シミュレート技術の開発
動物実験施設	講師	久保 薫	褥瘡の予防・治療のためのシンバイオテクスの開発

平成23年度 中島佐一学術研究奨励賞の募集

募集期間	平成24年1月31日（火）まで
募集要項	学内ホームページに募集要項及び申請書を掲載しています。 学内専用→研究推進課→研究助成金について→中島佐一学術研究奨励賞 http://top.naramed-u.ac.jp/jimu/kenkyu/nakajima.htm
応募資格	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県立医科大学医学部医学科の若手教員（原則として申請時に45歳未満の者とする。） ・1教室につき1名（附属病院中央部門に勤務する教員については、その出身する教室に所属するものとみなす。）
受賞者数	原則2名
副賞	研究奨励金を授与（平成22年度は、1人につき30万円）



看護学教育における研究活動を振り返って

成人看護学 教授 瀬川 睦子



看護学教育に携わる中での研究は、医療・看護、或は看護学の発展のためと認識し、臨床看護や看護学教育に関することをテーマとする。臨床現場及び教育機関をフィールドとし、患者・家族が求める看護援助は何か？を課題とするニーズ調査やセルフケア機能及びQOL向上の援助の探求を研究の意義として取り組んだ。古くは「腎移植患者の看護-回復期における不安・苦痛の分析-」をテーマに実践した看護をCase Studyした。また、「家族のセルフケア機能向上への援助」や「訪問看護における在宅療養患者への家族システム看護の有効性」をテーマに10家族を調査し援助について考究した。患者・家族を社会的視点で捉え、介入の手がかりを探るために、S.

ミニューチンが提唱する家族システム理論を応用して家族のセルフケア機能を構造的にアセスメントした結果、サブシステムの問題によりセルフケア機能の低い家族3事例に対して円環的コミュニケーションへの働きかけを試みた。介入後はいずれも健全で機能的な関係へと変化が見られ、システム理論応用によるアプローチの有効性が推測できた。

次に、成人看護学で教授する臨床看護は救命救急から急性・慢性疾患患者の回復に向けた援助、更に終末期にある人の平穏な死への援助まで幅広く、研究課題も広範囲から絞り込んで概念枠組みを構築する。その中で、「リハビリテーション看護における患者への関わりと看護体制上の課題」や「在宅難病患者のケアニーズ」及び「在宅ALS患者のスピリチュアリティを支える音楽療法」、「がん患者が求める『患者サロン』活用支援の検討」等、フィールドも医療機関にとどまらず在宅・地域へと広い範囲での調査研究であった。

更に、医療に従事する看護職者育成に関する看護学教育方法論などの研究では、講義・演習・実習等の授業形態及び教授内容、展開方法と課題も多岐に亘る。特に臨床実習は学生が直接アプローチして学ぶ貴重な体験学習で、教員の関係者との調整や個々に応じた指導の探求は必然である。「成人看護学初期実習の課題」、また「看護計画に関する臨地実習カンファレンスの効果的指導」では、カンファレンス26場面を観察し教員の発言を分析した。情報の分析や解釈への発言が多く、教員は専門的知識や技術の修得を促す役割を認識していることが窺えた。

最近のターミナルケアに関する研究では理論と実践の結びつき、或はターミナルケア援助者として死生観の形成や、対象の苦悩を理解する能力の育成などが課題である。そこで「終末期看護実習における死生観構築と共感性育成の効果的指導」では、ターミナル・緩和ケア実習の修得度評価と共感性得点（角田の共感性尺度）の相関性を検討した。「終末期看護における看護大学生の実習修得度と共感の関連」では、実習到達度と共感性の程度との関連性をスピアマンの相関係数からみて検討した。共感性のタイプの偏りはないが、自己を独立した存在と捉え、共感性も高い両向型がやや高値であった。そして実習で他者との情緒的つながりの共有経験があることが窺えた。他には「死に対する不安・態度の変化-DAS尺度」で生や死に対する授業前後の思考変化の調査を継続しており、教育活動に活かせるよう取り組んでいる。

平成23年度 外部資金獲得状況

(研究推進課)

(1) 平成23年度厚生労働科学研究費補助金

①研究代表者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
食品の安全確保推進研究事業	健康政策医学	教授	今村 知明	食品防御の具体的な対策の確立と実行可能性の検証に関する研究
政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)	健康政策医学	教授	今村 知明	医療における情報活用を行う上での適切な国際疾病分類に関する研究
健康安全・危機管理対策総合研究事業	健康政策医学	助教	小川 俊夫	地域社会における自動体外式除細動器(AED)の役割と費用に関する研究
障害者対策総合研究事業(精神障害分野)	精神医学	教授	岸本 年史	精神障害者に対する包括的禁煙対策の確立
難治性疾患克服研究事業	神経内科学	講師	杉江 和馬	自己貧食空胞性ミオパチーの診断基準確立と治療法開発に関する研究
治験推進研究事業	泌尿器科学	教授	平尾 佳彦	5-アミノレブリン酸(5-ALA)による蛍光膀胱鏡を用いた膀胱癌の光学診断に関する多施設共同試験
難治性疾患克服研究事業	輸血部	教授	藤村 吉博	非定型溶血性尿毒症症候群の診断法と治療法の確立

②研究分担者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者名等
創業基盤推進研究事業	分子病理学	教授	國安 弘基	Claudinを標的とした創業基盤技術の開発	大阪大学大学院薬学研究科 近藤 昌夫
食品の安全確保推進研究事業	地域健康医学	助教	佐伯 圭吾	国際食品規格策定に係る効果的な検討プロセスの開発に関する研究	京都大学 医学部公衆衛生学教室 里村 一成
食品の安全確保推進研究事業	健康政策医学	准教授	赤羽 学	食品防御の具体的な対策の確立と実行可能性の検証に関する研究	奈良県立医科大学 健康政策医学 今村 知明
食品の安全確保推進研究事業	健康政策医学	教授	今村 知明	国際食品規格策定に係る効果的な検討プロセスの開発に関する研究	京都大学 医学部公衆衛生学教室 里村 一成
食品の安全確保推進研究事業	健康政策医学	准教授	赤羽 学	食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握と治療法の開発等に関する研究	九州大学 教授 古江 増隆
食品の安全確保推進研究事業	健康政策医学	教授	今村 知明	第3世代バイオテクノロジー応用食品等の安全性確保とリスクコミュニケーションに関する研究	国立医薬品食品衛生研究所 西島 正弘
健康安全・危機管理対策総合研究事業	健康政策医学	教授	今村 知明	地域社会における自動体外式除細動器(AED)の役割と費用に関する研究	奈良県立医科大学 健康政策医学 小川 俊夫
地域医療基盤開発推進研究事業	健康政策医学	教授	今村 知明	専門医制度に関する研究	東京大学医学部附属病院 企画経営部 小池 創一
政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)	健康政策医学	助教	小川 俊夫	医療における情報活用を行う上での適切な国際疾病分類に関する研究	奈良県立医科大学 健康政策医学 今村 知明
難治性疾患克服研究事業	内科学第一	教授	斎藤 能彦	特発性心筋症に関する調査研究	国立循環器病研究センター 心臓血管内科 北風 政史
難治性疾患克服研究事業	内科学第二	教授	木村 弘	呼吸不全に関する調査研究	京都大学 大学院医学研究科 三嶋理晃
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	内科学第二	教授	木村 弘	睡眠呼吸障害による生活習慣病に関する医療情報提供とその効果の評価	愛媛大学 大学院医学系研究科 谷川 武
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	内科学第二	教授	木村 弘	肥満・高血圧合併睡眠時無呼吸患者に対する防風通聖散及び大紫胡湯の治療効果の比較と病態生理の解明	京都大学大学院医学研究科 呼吸管理睡眠制御学 隈 和夫
医療技術実用化総合研究事業	内科学第二	教授	木村 弘	慢性呼吸不全に対するグレリンの臨床応用	富崎大学医学部 内科学講座 中里 雅光
肝炎等克服緊急対策研究事業	内科学第三	教授	福井 博	血小板低値例へのインターフェロン治療法の確立を目指した基礎および臨床的研究	兵庫医科大学 西口 修平
難治性疾患克服研究事業	内科学第三	教授	福井 博	門脈血行異常症に関する調査研究	東京医科大学 森安 史典
難治性疾患克服研究事業	神経内科学	教授	上野 聡	スモンに関する調査研究	国立病院機構鈴鹿病院 小長谷 正明
難治性疾患克服研究事業	整形外科	教授	田中 康仁	ウエルナー症候群の病態把握、診療指針作成と新規治療法の開発を目的とした全国研究	千葉大学大学院 横手 幸太郎
成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業	産婦人科学	教授	小林 浩	ライフスタイルの変化に伴う妊娠希望時の妊孕性減弱に対する病態解明、新規診断法と治療法開発のための研究	国立成育医療研究センター 生殖医学 齋藤 英和
エイズ対策研究事業	小児科学	教授	嶋 緑 倫	血友病とその治療に伴う合併症の克服に関する研究(第VIII、第IX因子製剤のインヒビター発生要因に関する研究)	自治医科大学 坂田 洋一
難治性疾患克服研究事業	小児科学	教授	嶋 緑 倫	後天性血友病XIII(13)の実態調査、発症機序の解明と治療法の開発	山形大学医学部 分子病態学講座 一瀬 白帝
難治性疾患克服研究事業	小児科学	教授	嶋 緑 倫	新生児血栓症(7αロフィンC,7αロフィンS及びアンチロビン異常症)の効果的診断法と治療管理法の確立に関する研究	九州大学 大賀 正一
障害者対策総合研究事業(精神障害分野)	精神医学	教授	岸本 年史	精神疾患患者に対する早期介入とその普及啓発に関する研究	東邦大学 教授 水野 雅文
障害者対策総合研究事業	精神医学	教授	岸本 年史	自殺対策のための複合的介入法の開発に関する研究	国立精神神経医療研究センター 精神保健研究所精神薬理研究部 部長 山田 光彦
障害者対策総合研究事業(精神障害分野)	精神医学	教授	岸本 年史	治療抵抗性統合失調症に対する治療戦略のためのデータベース構築に関する研究	群馬大学 精神科 三國 雅彦
障害者対策総合研究事業(精神障害分野)	精神医学	助教	深見 伸一	精神障害者に対する包括的禁煙対策の確立	奈良県立医科大学 精神医学講座 岸本 年史
難治性疾患克服研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	杏林大学 塩原 哲夫
難治性疾患克服研究事業	皮膚科学	講師	桑原 理充	肥厚性皮膚骨膜炎における遺伝子診断と生化学的検査を踏まえた新しい病型分類の提言と既存治療法の再評価に関する研究	国立成育医療研究センター 新開 寛徳
がん臨床研究事業	泌尿器科学	教授	平尾 佳彦	高悪性度筋層非浸潤癌に対する経尿道的膀胱腫瘍切除後の治療方針の確立に関する研究	札幌医科大学 泌尿器科 塚本 泰司

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者名等
がん臨床研究事業	泌尿器科学	教授	平尾 佳彦	がん診療ガイドラインの作成(新規・更新)と公開の維持およびその在り方に関する研究	札幌医科大学 外科学第一講座 平田 公一
難治性疾患克服研究事業	輸血部	教授	藤村 吉博	血液凝固異常症に関する調査研究	慶応義塾大学 村田 満
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業	輸血部	准教授	松本 雅則	輸血用血液製剤及び血漿分画製剤投与時の効果的インフォームド・コンセントの実施に関する研究	虎の門病院 血液内科 牧野 茂義
難治性疾患克服研究事業	輸血部	准教授	松本 雅則	非定型溶血性尿毒症症候群の診断法と治療法の確立	奈良県立医科大学 輸血部 藤村 吉博
難治性疾患克服研究事業	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部	教授	高橋 幸博	新生児血栓症(7 ⁺ ロインC,7 ⁺ ロインS及びアンロヘン異常症)の効果的診断法と治療管理法の確立に関する研究	九州大学 大賀 正一
エイズ対策研究事業	感染症センター	客員教授	古西 満	日和見感染症の診断/治療およびそれを端緒とするHIV感染者の早期発見に関する研究	長崎大学医学部歯学部附属病院 感染症制御教育センター 安岡 彰
障害者対策総合研究事業	看護学 人間発達学	教授	飯田 順三	児童青年精神科領域における診断・治療の標準化に関する研究	国立国際医療研究センター 国府台病院 齊藤 万比古

(2) 独立行政法人 国立がん研究センター

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	主任研究者名等
がん研究開発費事業	放射線医学	講師	穴井 洋	有効なIVR手技の開発と標準化のための多施設共同研究	国立がん研究センター中央病院 荒井 保明
がん研究開発費事業	放射線医学	講師	穴井 洋	進行肝胆膵がんの治療法に関する研究	国立がんセンター中央病院 奥坂 拓志
がん研究開発費事業	健康政策医学	助教	小川 俊夫	国際比較の観点からみたわが国のがん対策のあり方に関する研究	国立がん研究センター 加藤 雅志
がん研究開発費事業	健康政策医学	助教	小川 俊夫	がん研究企画と評価の方法論に関する海外動向調査と医療経済的視点からの考察	国立がん研究センター 国府台病院 吉田 輝彦

(3) 独立行政法人 国立国際医療センター

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	主任研究者名等
国際医療研究開発費事業	看護学 人間発達学	教授	飯田 順三	注意欠如・多動性障害—ADHD—の客観的指標に基づく診断・治療指針の作成に関する研究	国立国際医療研究センター 国府台病院 齊藤 万比古

(4) 独立行政法人 国立成育医療研究センター

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	主任研究者名等
成育医療研究開発費事業	小児科学	教授	嶋 緑 倫	小児出血・血栓性疾患診療の向上と均てん化を目的とした治療管理マニュアルの作成と教育研修法の開発	国立成育医療研究センター 石黒 精

(5) 独立行政法人 国立循環器病研究センター

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	主任研究者名等
循環器病研究開発費事業	内科学第一	教授	斎藤 能彦	重症循環器疾患に対する生理活性ペプチドのトランスレーションリサーチ	国立循環器病研究センター 寒川 賢治

(6) 独立行政法人 医薬基盤研究所

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	主任研究者名等
政策創薬総合研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	帯状疱疹ワクチン開発のための疫学研究	医薬基盤研究所 理事長 山西 弘一

(7) 経済産業省

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
戦略的基盤技術高度化支援事業(一般枠)	泌尿器科学	教授	平尾 佳彦	MEMS技術を用いた癌診断用カートリッジ型ハイスルーブット光学尿中細胞診断装置の開発
課題解決型医療機器の開発・改良に向けた病院・企業間の連携支援事業	産婦人科学	教授	小林 浩	極狭部の癌に適応可能な低侵襲レーザー治療器の開発

(8) 文部科学省

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業	女性研究者支援センター	センター長	喜多 英二	女性研究者が研究を継続・発展させ、キャリアアップを図ることができる環境整備を行う。
度地域産学官連携科学技術振興事業費補助金<イノベーションシステム整備事業>地域イノベーション戦略支援プログラム(国際競争力強化地域)「けいはんな学研都市ヘルスケア開発地域」	泌尿器科学	教授	平尾 佳彦	MEMSを用いた無拘束生体計測基盤技術(新たな生体測定・診断システム)の開発

(9) 独立行政法人 科学技術振興機構

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
戦略的創造研究推進事業	物理学	講師	高木 拓明	細胞における確率的分子情報処理の理論研究
「知財活用促進ハイウェイ」大学特許価値向上支援	産婦人科学	教授	小林 浩	児状態検出用腹帯及びこれを用いた胎児状態検出方法」の臨床試験と実用化に向けた改良試作
研究成果展開事業 産学共創基礎基盤研究プログラム	第一解剖学	教授	西 真弓	長残光蛍光体ナノ粒子による担癌マウスの無励起光型蛍光イメージングおよび細胞外マトリックスの動的制御
研究成果最適展開支援事業 A-STEP	第二内科学	助教	藤田 幸男	慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 患者の呼吸波形解析を活用した呼吸困難評価法の開発
研究成果最適展開支援事業 A-STEP	産婦人科学	助教	野口 武俊	腔内pH値及び緩衝能測定による早産の早期予知法の開発
研究成果最適展開支援事業 A-STEP	口腔外科学	助教	今井 裕一郎	3次元画像による顎顔面領域外科手術シミュレート技術の開発
研究成果最適展開支援事業 A-STEP	動物実験施設	講師	久保 薫	褥瘡の予防・治療のためのシンバイオテイクスの開発

(10) 独立行政法人 医薬基盤研究所

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
保健医療分野における基礎研究推進事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	経皮免疫製剤の臨床研究

(11) 奈良県

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
奈良県自殺対策に関わる高度人材養成事業	精神医学	教授	岸本 年史	自殺未遂者等に心理教育を実施し、退院後に問題解決を図るために適切な社会資源と連携するケースマネージャーを養成し、再発を防止する

(12) 三重県 名張市

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査事業	脳神経外科学	教授	中瀬 裕之	伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査

(13) その他 財団法人等

団体名等	所属	職名	氏名	研究課題名
財団法人明治安田厚生事業団	住居医学	助教	大林 賢史	温熱・光住環境と血圧モニタリングサージおよび夜間血圧変動に関する横断研究
公益財団法人JR西日本あんしん社会財団	第一解剖学	教授	西 真弓	心的外傷後ストレス障害(PTSD)発症の分子基盤の解明と治療法の開発
財団法人整形災害外科学研究所助成財団	整形外科	大学院生	清水 隆昌	注入型骨移植法を用いた偽関節治療(骨芽細胞シート注入移植を応用した低侵襲手術手技の確立を目指す)
公益財団法人三島海雲記念財団	脳神経システム医科学	教授	坪井 昭夫	食における匂いの快・不快感を科学する—新生ニューロンの発達に与える影響—
財団法人稲盛財団	脳神経システム医科学	助教	高橋 弘雄	哺乳類嗅覚によるCO2感知機構の解析
バクスター株式会社	小児科学	大学院生	矢田 弘史	後天性血友病A患者の止血管理におけるバイパス製剤療法の新たな治療戦略の確率
公益財団法人大阪腎臓バンク	分子病理学	講師	千原 良友	多発性嚢胞腎ラットの腎嚢胞化進展過程にみられるEカドヘリン発現抑制に関するエピジェネティック修飾の研究
財団法人阪本精神病理学研究所	精神医学	助教	鳥塚 通弘	iPS細胞を用いた培養系精神疾患モデルの確立
公益財団法人武田科学振興財団	健康政策医学	准教授	赤羽 学	細胞操作技術を用いた難治性偽関節の治療法開発
公益財団法人武田科学振興財団	脳神経システム医科学	助教	吉原 誠一	再生医療を目指した成体脳における神経活動依存的な新生神経回路形成機構の解明
公益財団法人武田科学振興財団	血圧制御学	講師	染川 智	動脈発生に必須の新規小胞体膜蛋白の血管発生および成熟臓器機能制御における意義
公益財団法人先進医薬研究振興財団	小児科学	講師	野上 恵嗣	インヒビター保有先天性/後天性血友病Aの凝固抑制機序の解明と新たな止血治療戦略
公益財団法人上原記念生命科学財団	脳神経システム医科学	教授	坪井 昭夫	生体神経新生における血管-神経の相互作用

中学生の職場体験学習を受入

昨年11月に福原市立八木中学校(4名)及び畷傍中学校(5名)の生徒さんが職場体験学習に本院にいられました。1日目は、病棟での看護体験、2日目は薬剤部、中央臨床検査部、中央放射線部の見学や医療技術センターでの医療機器の模擬体験、また、医師へのインタビューをしていただきました。

看護の実際に触れ看護職が医療の中でどのようなことをしているのか、病院には様々な職場があり専門的な知識や経験を活かして働いていることを知ること、また、患者さんや病気に向き合う医師の姿勢や思いを聞き、医療職への関心を深めてもらうことがねらいでした。緊張した様子で体験に来られた生徒さんにとって、働くことの喜びや厳しさ、自分の将来を考える良い機会になったのではないかと思います。



病棟での看護体験

生徒さんの感想

☆初めての仕事に緊張し、患者さんと上手にしゃべることができなかったけど、患者さんが笑顔で「頑張って」と声をかけてくれ、ほんとうに嬉しくやりがいのある仕事だと思いました。この体験でますます看護師になりたいと思いました。

☆体験させていただいた中で、一番心に残っているのは、医療機器の模擬体験をしたことです。おもしろい機械ばかりで、特に気に入ったのは、呼吸をする機械です。体験しているみんなを見ているとおもしろかったし、楽しかったです。

☆病院にいただけで、人の命を守るという仕事の真剣な空気が伝わってきて感動しました。



薬剤部での調剤見学



医療技術センターでのAED体験

平成24年度 奈良県立医科大学附属病院 臨床研修マッチング結果

～医師臨床研修のマッチング者数55人及びマッチング率94.8%は過去最高～

臨床研修センター長 福井 博

平成24年4月からの臨床研修医の採用を決めるための「医師臨床研修マッチング結果」が昨年10月27日(木)に発表されました。本院は募集定員58人に対して、マッチング者数は55人となり、マッチング率94.8%と過去最高を記録しました。各診療科のご協力により、卒後臨床研修の内容が良く、学生諸君から高い評価と支持が得られたものとまずは喜んでおります。

また、奈良県全体としての今回のマッチング者数は94人(前年度より18人増加)となり、総定員101名に対するマッチング率は93.1%であり、全国順位は2位に躍進しました。これは奈良臨床研修協議会の議論を経て各研修病院の定員調整を行った成果であり、これも大変喜ばしい結果です。

ただ、奈良県で卒後臨床研修を受けた医師がその後どれだけ奈良県の医療に貢献しているのかについてはさらに精査が必要です。将来の奈良県の医療の発展のためには奈良医大附属病院にもっと多数の研修医が残るべきであり、今後とも施設、教育体制、待遇の全ての面において病院として努力を続けていかなければならないと思っております。

()は昨年度数値

プログラムの名称	臨床研修プログラムA	臨床研修プログラムB	臨床研修プログラムC1	臨床研修プログラムC2	計(人)	マッチ率 (マッチ者/定員)
プログラム内容	基本的に医大附属だけでローテートするプログラム	医大附属病院と協力型病院をローテートするプログラム	産婦人科医を目指すための特別プログラム	小児科医を目指すための特別プログラム		自学占有率 (本学学生/マッチ者)
募集定員	40 (40)	14 (15)	2 (2)	2 (2)	58 (59)	
マッチング者数	38 (30)	13 (12)	2 (2)	2 (0)	55 (44)	94.8% (74.5%)
うち本学学生	30 (21)	11 (11)	0 (1)	1 (0)	42 (33)	76.4% (75.0%)

参考 都道府県別の結果 奈良県	今回(H23.10.27発表結果)				前回(H22.10.28発表結果)			
	募集定員	マッチ者数	マッチ率	全国順位	募集定員	マッチ者数	マッチ率	全国順位
	101	94	93.1%	2位	101	76	75.2%	16位

()は昨年度数値

プログラムの名称	歯科医師臨床研修プログラム	マッチ率 (マッチ者/定員)
募集定員	8 (8)	
マッチング者数	8 (8)	100.0% (100.0%)

口腔外科部長 桐田 忠昭

平成24年4月からの研修歯科医の採用を決めるための「歯科医師臨床研修マッチング結果」が昨年10月18日(火)に発表されました。定員枠の8名が全て充足(フルマッチ)しました。

所属紹介

A病棟6階北 産婦人科病棟

婦人科では思春期から老年期に至る婦人科疾患（良性・悪性など）をもつ患者さんに対して、手術療法・化学療法・放射線療法などの治療が行われています。女性としての特徴から社会的・家庭的立場・性への役割などを踏まえての援助が必要です。時には療養上の配慮や精神的サポートで難しい面もありますが、女性同士だからこそわかり合えることや患者さんから教えていただくことも多くあります。

所属の基本方針として

- ①大学病院としての先進医療に取り組むと同時に緩和医療と連携して、患者さんや家族が安全・安心して入院生活を送れるように援助します。
- ②医師・看護師・コメディカル間との良好なコミュニケーションを行い、安全な医療が提供できるチーム医療を目指します。

この2つの方針のもと、病棟全体でさまざまな勉強会を行い知識・技術の向上を目指して取り組んでいます。



A病棟7階北 眼科、皮膚科・形成外科病棟

A病棟7階北は、眼科と皮膚科・形成外科の混合病棟で合計47床です。

眼科は年間1700件（外来手術含む）の手術があり、週の始めに20名以上の患者さんが入院され、在院日数は患者さんの半数以上が1週間程度です。そのため短期間で良好な関係が築けるよう看護技術はもちろん、コミュニケーション力が大切です。また、患者さんの多くが高齢であり、ADL状況や視力障害の程度をふまえて食事・移動介助・保清などの援助を行っています。

皮膚科・形成外科は、主に手術療法や化学療法、特殊治療などを受ける患者さんが入院されています。急性期・慢性期・終末期などのさまざまな病期の患者さんにかかわります。また、入退院を繰り返される患者さんに対しては、精神的なフォローを大切にしています。

ベッドサイドの安全を重視しながら患者さんが安心して入院生活を送れるようにスタッフ全員、日々協力しあいながら頑張っています。



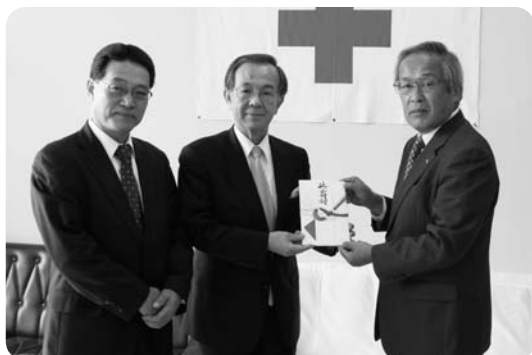
A病棟7階南 小児センター

小児センターでは、嶋教授をはじめ医師15名・研修医、看護師23名・看護助手2名の医療スタッフが協力し、質の高い温かい医療を提供しています。「小児センター看護理念」は、「常にこども・家族の立場に立って考え、心のこもった態度で接し、安心のできる温かい看護を提供する。互いを承認し、こどもたち・家族・医療者のあたたかい笑顔がたくさん見られる療育環境を提供する。」を目指しています。

病床数は、31床で、小児センター内には、優しい動物の絵がたくさん描かれ、温かい雰囲気のある病棟です。うまく訴えることのできないこどもの異常に気付き、思いをくみ取りケアを展開し、身体的苦痛、精神的苦痛の緩和に努めていく温かい看護を実践しています。長期入院になる場合も多く、家族とともに治療に対する思いを共有し、医師とのカンファレンスも定期的に行い、受け持ち看護師を中心に看護を進め、チームで連携し支援しています。内科・外科系を問わず様々な病気の幅広い年齢層の患者さんが入院されており、治療だけではなく、遊びの提供・さまざまなレクリエーションも開催しています。こどもたちや家族に笑顔が見られ、入院生活を楽しく潤いのあるものにしていきます。院内学級を併設し、こどもたちの教育を受ける権利を保障しています。入院生活が安全かつ快適に送れ、少しでも苦痛がやわらぎ、こどもたちが笑顔になることを目指していきたくと思います。



台風12号災害義援金についてのご報告



台風12号災害義援金につきまして、教職員の皆様に義援金のご協力をお願いいたしましたところ、561,484円もの義援金が寄せられました。

過日、理事長が日本赤十字社奈良県支部を訪れ義援金を寄託いたしましたことをご報告いたします。

また、皆様からお寄せいただきました東日本大震災義援金の追加分の義援金158,443円も併せて寄託いたしましたことをご報告いたします。

教職員の皆様の温かい善意に対し心よりお礼申し上げます。

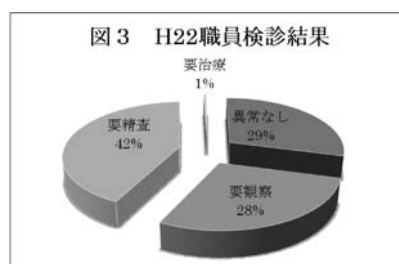
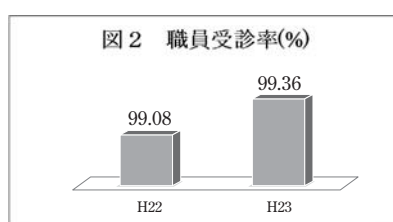
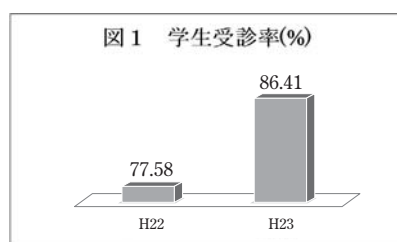
なお、東日本大震災の義援金の受付期間は平成24年3月31日

までとなっておりますので、引き続き、総務課で受付をさせていただきます。

健康管理センターでは職員と学生を合わせて 3000人以上の健康管理事業を実施しています。

当センターでは健康診断、検診、健康相談などの健康管理事業の体系化を進めているところです。健康診断については職員・学生の全員が受診していただくよう実施方法を工夫したり啓発活動に努めています。健康診断受診率については図1・2に示すように上昇傾向にあります。しかし受診率は、100%に至っておらず、まだまだ促進の努力が必要です。一方、職員の定期健康診断の結果を見ていると、正常範囲を示している職員が29%と少なく、一方で要精査が42%を占めており、医療機関での精査加療が必要な職員も多数います。(図3)しかし、現在のところそのフォローや健康相談までの対応については十分ではありません。

今後、健康管理センターは、学生・職員の健康維持とその管理、さらには健康で安心して働き学べる職場や学習環境づくりの面からサポートしてまいります。



公開講座「くらしと医学」開催のお知らせ

下記のとおり開催します。皆様お誘い合わせの上、ぜひご聴講ください。

日時：平成24年3月10日(土) 13時~15時30分

場所：奈良県文化会館国際ホール(奈良市登大路町)

演者：泌尿器科学 平尾教授、化学 大崎教授、泌尿器科学 石橋前講師

Report

承認された規程、委員会名簿等については、随時、ホームページにて公開しています。

学内ホームページURL（閲覧は学内のみ可能）

<http://top.naramed-u.ac.jp/> → 「規程・名簿タブ」

*は、公開ホームページに掲載

<http://www.naramed-u.ac.jp/aff/johokoukai/>

（総務課）

役員会及び教育研究審議会の報告

第23回 役員会（10月5日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
- (1) 教員の人事について
- (2) 特任教員の選考について
- (3) 教授選考について
- (4) 産学官連携・知的財産・利益相反ポリシー（案）の制定について
- (5) 文部科学省科学研究費補助金の応募資格の見直し（案）について
- (6) 平成23年度 講座・教員研究費の下半期配分について
- 2 平成23年度の財務状況について（8月末現在）報告
- 3（仮称）中央手術棟の整備について報告

第6回 教育研究審議会（10月6日）

- 1 平尾教授（泌尿器科学）から提出された発明届について、特許等を受ける権利を承継することを決定
- 2 特任教員の配置について承認
- 3 教員の人事について承認
- 4 教授選考について
- 5 平成24年度 年度計画策定方針（案）について承認
- 6 産学官連携・知的財産・利益相反ポリシー（案）の制定について承認
- 7 文部科学省科学研究費補助金の応募資格の見直し（案）について承認
- 8 平成23年度 講座・教員研究費の下半期配分について承認
- 9 病院教授の称号付与について報告
- 10 平成23年度 年度計画 重点的に進捗管理を行う項目について報告
- 11 奈良県立医科大学医学部学生白書の作成について報告
- 12 学長選考会議委員の選任について

第24回 役員会（10月12日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
- (1) 教員の人事について
- 2 特任教員の人事について承認
- 3 職員（電気職、臨床工学技士、作業療法士）採用試験の合格者を決定

第25回 役員会（10月19日）

- 1 医療情報システム運営委員会規程の改正について承認
- 2 学長選考等に関する規程の改正案について審議
- 3 なかよし保育園の整備について報告

第26回 役員会（10月26日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
- (1) WEBメールシステム導入について
- 2 渉外委員会規程の改正について承認
- 3 職員採用試験の合格者を決定（事務職・看護職）
- 4 平成24年度医学部入学定員について報告

第27回 役員会（11月2日）

- 1 教育研究審議会案件について承認他
- (1) 教員人事について
- (2) 教授選考について
- (3) 教員の再任審査方法の検討について
- (4) 教育研究審議会の学外委員の再任について
- (5) 大学ホームページの改訂（研究者情報データベースの導入）について
- 2 職員採用試験の合格者を決定（精神保健福祉士、社会福祉士、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、歯科技工士）
- 3 渉外委員会規程の改正について承認
- 4 中期計画及び平成23年度年度計画の取組状況について報告
- 5 平成24年度大学院看護学研究科（修士課程）学生募集要項（案）の概要について報告
- 6（仮称）中央手術棟の整備について報告

第7回 教育研究審議会（11月2日）

- 1 学外委員の再任について承認
- 2 教員人事について承認
- 3 教授選考について
- 4 教員の再任審査方法の検討について承認
- 5 WEBメールシステム導入について承認
- 6 大学ホームページの改訂（研究者情報データベースの導入）について承認
- 7 特任教員の採用について報告
- 8 中期計画及び平成23年度年度計画の取組状況について報告
- 9 平成24年度医学部入学定員について報告
- 10 平成24年度大学院看護学研究科（修士課程）学生募集要項（案）の概要について報告

第28回 役員会（11月9日）

- 1 健康管理センター所長の募集について承認
- 2 平成23年度第1回決算見込について報告

第29回 役員会（11月16日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
- (1) 奈良県立医科大学女性研究者支援センター規程の改正について
- (2) 女性研究者研究活動支援（研究支援員配置）事業の実施について
- (3) 女性研究者表彰制度の創設について
- 2 学長選考等に関する規程の一部改正について承認
- 3 視能訓練士の採用について承認

第30回 役員会（11月22日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
- (1) 奈良県立医科大学大学院特別研究学生規程の一部改正について
- 2 なかよし保育園の建設工事請負契約の締結について承認
- 3 公的研究費の不適切な経理に関する調査結果（中間報告）について報告

第31回 役員会（11月30日）

- 1 保育士の募集について承認
- 2 給与規程の一部改正について承認
- 3 看護職員採用試験の合格者決定について承認
- 4 外国人客員研究員の受入れについて報告

第8回 教育研究審議会（12月5日）

- 1 発明届について審議
- 2 教授選考にかかる教室員からの意見聴取

第32回 役員会（12月7日）

- 1 教育研究審議会案件について承認他
- (1) 教員の人事について
- (2) 特任教員の配置について
- (3) 発明届について
- (4) 奈良県立医科大学学則の一部改正について
- 2 平成23年度の財務状況（10月末現在）について報告

第9回 教育研究審議会（12月8日）

- 1 穴井講師（放射線医学）から提出された発明届について、特許等を受ける権利を承継することを決定
- 2 教員の人事について承認
- 3 健康管理センター所長の募集について承認
- 4 教授候補者の選考に係る基本方針（案）について
- 5 特任教員の配置について承認
- 6 女性研究者研究活動支援（研究支援員配置）事業の実施について承認
- 7 女性研究者表彰制度の創設について承認
- 8 奈良県立医科大学大学院特別研究学生規程の一部改正について承認
- 9 奈良県立医科大学学則の一部改正について承認
- 10 学長選考等に関する規程の一部改正について報告
- 11 平成23年度第1回決算見込について報告
- 12 奈良県立医科大学女性研究者支援センター規程の改正について報告
- 13 外国人客員研究員の受入れについて報告

第33回 役員会（12月14日）

- 1 意向調査の実施等に関する規程の改正について報告
- 2 公的研究費の不適切な経理に関する調査結果（最終報告）について報告

第34回 役員会（12月21日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
- (1) 奈良県立医科大学学生の懲戒に関する規程の一部改正について
- 2 看護職員採用試験の合格者を決定
- 3 管理下にない放射性物質の調査結果について報告

第35回 役員会（12月28日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
- (1) 教員の人事について
- (2) 特任教員の配置について
- (3) 臨床教授等の選考について
- 1 次期学長候補者の決定について報告
- 2 発見された未登録の核燃料物質に係る調査結果について報告
- 3 大学院看護学研究科修士課程等出願状況について報告

「メディア掲載情報」をお寄せください ～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を、この「学報」紙面で紹介します。

掲載者	掲載メディア	掲載概要
小林 浩 教授 (産婦人科学)	産経新聞 朝刊 11月7日(月)	産経新聞の1ページに小林教授による「妊婦在宅のまま病院から見守り」に関する記事が掲載されました。在宅や職場からIT腹帯を装着するだけで、胎児心拍数と子宮収縮が無侵襲で送信でき、医師が見守るシステムです。

このコーナー「メディア掲載情報」は、皆さんからの提供情報に基づき作成します。自薦、他薦を問いません。

【情報提供先】

ファックス等により、右記へお知らせください。法人企画部 総務課 総務係 (内線2206) FAX 25-7657

くわしくは、

URL:http://top.naramed-u.ac.jp/jimu/soumuka/O3soumu/media_joho.pdf (学内専用)

学報バックナンバーはWebサイト上でもご覧いただけます (<http://www.naramed-u.ac.jp/gakuho.htm>)

下ツ道

(編集後記)

新年あけましておめでとうございます。年末年始はどのように過ごされましたか？今年辰年なので『龍のごとく、飛躍の年にしたい』という言葉がよく聞かれました。昨年の大災害からの復興を強く願う想いが込められているようです。私達も元気に力強く前を向きがんばりましょう。本年もよろしくお祈りします。

今村 知明

○今村 知明(健康政策医学)
笹平 智則(分子病理学)
藤本 雅文(物理医学)
坂東 春美(地域看護学)
錦 三恵子(看護部)
岡 眞啓(研究推進課)
永井 淳(学務課)
奥田 稔(病院管理課)
前 和之(総務課)
池田 真琴(総務課)
(○印は編集委員長)

掲載希望の記事等については、各編集委員までお知らせください。